

LOGISTICS USER MEETING

# ユーザー会 発表資料

株式会社ジョイックスコーポレーション

物流部 御子柴

# 会社概要

社名	株式会社ジョイックスコーポレーション (JOI'X CORPORATION)
本社所在地	東京都千代田区隼町3-16 住友半蔵門ビル
設立	1971年11月1日
代表者	代表取締役社長 福垣 学
事業内容	アパレル製品・雑貨洋品等の企画・販売
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行
出資者	伊藤忠商事株式会社

# ロジメーター導入の背景と目的

---

## 導入前の課題

---

- ▶ **属人化による配置の偏り：**  
経験と勘に頼った人員配置により、日によって人手不足や手待ちが発生。
- ▶ **進捗のブラックボックス化：**  
作業進捗のリアルタイム把握が難しく、当日の残業予測がお昼以降にならないと立たなかった。

## ロジボードに期待したこと

---

- ▶ **根拠のある計画立案：**  
過去データに基づいた「要員計画・作業計画」の策定。
- ▶ **進捗乖離の早期発見：**  
日中の遅れをいち早く検知し、迅速な人員の「多能工シフト（応援）」を実現する仕組み作り。

---

# 現在の運用事例と 取り組み状況

計画立案から日々の管理、そして振り返りまでのサイクル

# ① 【計画：前日～当日前】 ロジボードでの計画策定

## ▶ 必要工数の算出：

当日の入荷・出荷予定数から、業務に必要な総工数を自動で算出。

## ▶ 時間帯別の要員配置：

算出された工数をもとに、時間帯ごとの必要人員を過不足なく配置。

## ▶ 役割の可視化：

各チーム（ピッキング、検品、梱包など）へのリーダーおよびスタッフの割り当てを明確に可視化し、迷いのないスタートを切る。



## ② 【実行・管理：日中】 リアルタイム進捗管理

### ▶ 定点での進捗確認：

1日数回、定時（10時、13時、15時）にロジボードを開き、「計画に対する実績」の進捗度合いをチェック。

### ▶ ボトルネックの早期発見：

画面上で遅れている工程など、視覚的に異常を検知。

### ▶ 機動的な人員シフト：

進捗が遅れている工程に対し、順調な他チームからの「応援人員」を即座に投入し、全体最適を図る。



### ③ 【振り返り：翌日・月末】 生産性の分析

#### ▶ 目標と実績の対比：

設定した目標生産性（例：〇〇pcs/h）に対して、実際の生産性実績がどうだったかを振り返り。

#### ▶ 要因分析：

未達だった場合、物量波動、人員スキル、イレギュラー対応など、何が要因だったのかをデータから読み解く。

#### ▶ 計画精度のチューニング：

得られた分析結果を次回の計画立案時のパラメータに反映し、ロジボードの精度を継続的に向上させる。



---

# 導入後に 実感している成果

可視化がもたらした現場の意識変化と効率化

# 成果① 手待ち時間の削減による生産性向上

---

## 作業の谷間をなくす

各工程の進捗がリアルタイムに可視化されたことで、「次に何をすべきか」の判断スピードが飛躍的に上がりました。結果として、作業と作業の間の谷間（手待ち時間）を大幅に削減することに成功。センター全体の時間あたり生産性が底上げされ、確かな業務効率化を実感しています。



## 成果② 「応援」の活性化と多能工化の推進

生産性向上で生まれた「余力」が、進捗遅れの工程への「応援」を増加させ、スタッフの複数工程経験（スキルマップ底上げ）に繋がっています。



入荷・ピッキング



検品作業



梱包・出荷

## 成果③ 現場のマネジメント力の向上

---





### 確信を持った指示出しへ


以前は感覚的な判断に頼る部分がありましたが、現在は計画に対する進捗の遅れ（ボトルネック）がダッシュボード上でひと目でわかります。

そのため、現場リーダーがデータという「根拠」をバックに、自信を持って「〇〇さん、あっちの応援に入ってください」と、非常に的確かつタイムリーな指示を出せるようになりました。

## 成果④ 「物流報告」の高度化と効率化

 **他部門との連携報告** 毎月の会議（WEB報告会）にて、営業・マーケティング部門の報告（売上や訴求施策）とダイレクトに紐づいた物流実績の報告が可能になりました。

 **資料作成の手間を大幅削減** ロジメーターに蓄積されたデータをそのままレポート化・抽出できるため、これまでの手作業による資料作成時間が大きく削がれました。

 **経営陣へのアピール力向上** 「急な物量波動に対して、いかに計画通り安定して発送を完結できたか」を、数字とグラフで分かりやすく、説得力を持ってアピールできるようになりました。

# 現在直面している課題

---

## 入力・運用の定着化

---

現場が最も忙しいピーク時間帯において、スタッフの実績入力やステータス変更のアクションがリアルタイムに追いつかない場面がまだ発生しています。

※オペレーションに負荷をかけない入力フローの模索が急務

## 属人性の解消（管理者依存）

---

ロジボードの豊富な機能を使いこなし、高度な計画立案や分析ができているのが、現状ではまだ一部の熟練管理者に留まってしまっています。

※属人化排除のためのツール導入でしたが、ツールの運用自体が属人化するリスク

# 今後の展望

## 現場リーダー層のボトムアップ

一部の管理者だけでなく、各チームのリーダー層が、自らロジボードの数値を分析して改善アクションを起こせる組織を目指します。

ロジメーターのデータを単なる「振り返り用」ではなく、現場主導の「自立的な現場改善」のためのツールとして、より深く定着させていきたいと考えています。



## 他社様へ聞いてみたいこと（ディスカッション）

---

現場のパート・アルバイトスタッフへの、個人生産性データの開示  
やフィードバックはどのように行っていますか？

（モチベーション向上に繋がっている事例があれば知りたいです）

現場リーダー層へのロジメーター（ロジボード）運用の教育・定着  
化で、特に工夫している点はありますか？

**ご清聴ありがとうございました。**

引き続きよろしくお願いいたします。